

2015  
秀作

## 第48回「おかねの作文」コンクール



# みんなのためは私のため

大分県・大分県立大分豊府中学校 3年 佐藤 結衣

「おかね」への価値観、使い方は人によって様々です。その中でも父は「小さな幸せのために」、母は「生きていくために」、弟は「好きな物を好きなときに買うために」利用したいと言っていました。

以前は私も弟と同じ考えだったのですが、この夏、小学校の頃に住んでいたシンガポールへ家族旅行をして、少し考えが変わりました。

今、シンガポールドルは1ドル90円前後です。しかし、私の住んでいたときは60円程度でした。約25円もの差が生じています。

その少し厳しい中、私が高校に進学し夏休みが忙しくなる前に、と両親が旅行を組んでくれました。私も弟も、これからどんどんお金のかかっていく年です。父と母にとって、円安の時期に4人で行く海外旅行は大きな決断だったことと思います。

また、今回の旅行によって、私はシンガポールで暮らしていたときのことを思い出しました。

慣れない異国での生活。引越し当初は想像以上に苦しくて不自由な部分も少なくなかったのですが、それでも毎日安定した生活を送っていたのは、父が稼いでくれていたおかげです。初めての職場で父も苦勞することが多かったはずなのに、イヤイヤ一日を過ごしていた当時の私は、お金のかかる私立の小学校に通わせてもらいながらそんなことも忘れていました。

この二つのことでは、旅行という「楽しみのために」と、生活という「生きていくために」とで「おかね」の用途は全く違います。どちらにしろ「おかね」は必要なのですが、楽しみの前に普段の暮らしがあり、娯楽を味わうには貯金がいるのです。このことを一から考えると、上手に活用するために必要最低限以上の貯蓄をすることが大切だと分かります。

私は将来、父のように海外で働き、社会について学びたいです。もちろん金

銭面においても容易なことではありません。日本にいる間の学費も、今以上にかかってくるはずです。しかし父も母も

「短期でもいいから留学して、もう一度外国で学んでみたら？」

と、留学まですすめてくれています。そう言われたとき、将来の夢を叶えるには、想像している額よりもはるかに上回る金額になるんだな、と痛感しました。

今年の夏の旅行を通して、自分自身の今までの生活も振り返ってみましたが、「おかね」について「楽しみのために」や「生きていくために」ではあるものの、「人の幸せのために」が、実際は一番大きいのではないのかと思います。

娯楽といっても、それは私や弟へのものであったらろうし、自分の生活には私たち子どもを養うということだっただけ入っています。すなわち、自分ではなく「人のために」になるでしょう。また、それは国内外関係ないのだと思います。

先日放送された24時間テレビの募金が被災地復興として贈られているように、2011年の東日本大震災時、多くの国から募金がありました。同じ人間として「人の幸せのために」一丸となって助けてくれた世界中の人々のことも思い出させてもらいました。

決して自分が裕福でないとしても、相手の幸せを想って「おかね」を使うことは、自分のためだけに使用するより、大きな心の満たしを得られるのだと感じます。

旅行を通して考え直したことを念頭に置いて、より多くの人々が幸せになれるような「おかね」の使い方ができるようにし、両親にもお願いして将来の夢を叶えたいと思っています。

そして、その叶えた夢で社会に役立つような金銭の用途を提示し「人の幸せのため」の「おかね」にしたいです。

